

# 教務関係について

2021年度（オンライン）父母説明会

学生支援本部 教務課

大学における授業形態などに関する説明

2021年5月26日収録

※画像は2019年以前に撮影されたものを中心に掲載しています。

※本内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会状況の変化により  
対応等が変更となる場合があることを予めご了承ください。

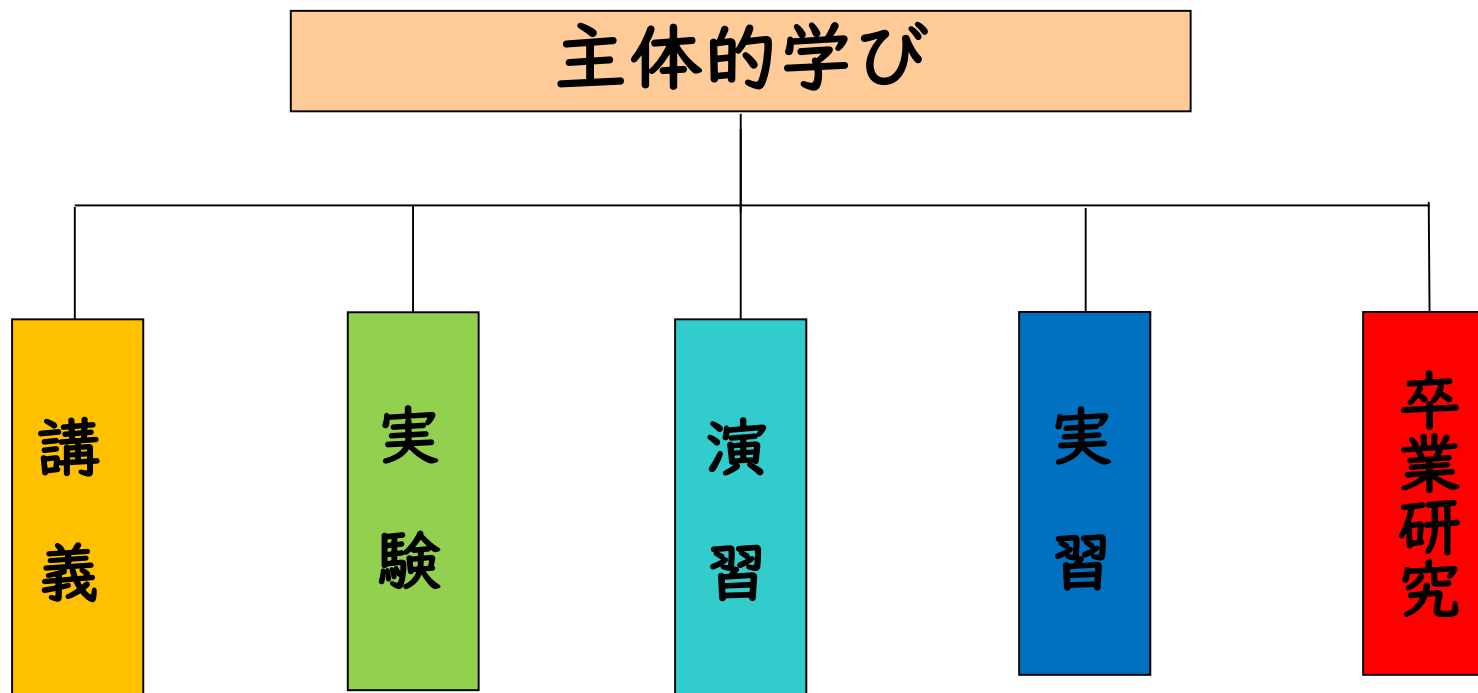
## 高校との学びの違い

- 高校までは「決められた（受動的）学び」
- 大学は ⇒ 「主体的な（能動的）学び」
  - 自身で計画、受講科目・時間割を組む（履修）
  - 事前/事後学修を含め“自ら学ぶ”
  - 授業形態も様々である

# 「高校」と「大学」の「学び」の違い

高校	項目	大学
大半は同じ教室	教室	授業によって異なる
50分授業	授業時間	90分授業
毎日一律の開始	授業開始時刻	曜日により異なる
クラス全員で同じ	時間割	自らの選択有り
教科書に沿って学ぶ	授業（学び方）	主体的に学ぶ
一律の指定された教科書	教科書	ない場合もある
あり	ホームルーム・朝礼	なし
クラス担任・職員室・保健室	相談窓口	相談内容で窓口が異なる
クラス担任から適宜、伝達	学内情報	自らKAITWalker等で収集
約1カ月/約2週間	夏休み/春休み	約2カ月弱/約2カ月弱

# 大学の授業形態





- 教員の話す内容を聞いて理解する。
  - 自分の見解を持つことが重視される。
  - ディスカッションや発表、レポートが授業に取り入れられることが多い。
  - テキストのほかに、最新情報のプリントなどを教材に行う授業もある。
- 
- **ねらい：**
    - 社会人としての基礎力、
    - 専門領域の基礎から応用まで
    - 幅広い知識や技術を身に付ける。

- 講義で学んだ理論や仮説について、条件を設定して確かめる。  
その結果や自分の見解を実験レポートにまとめたり、  
成果を発表する。
- 実験に必要な基礎知識やそのテーマに必要な知識、  
さらには実験法を自ら創案しながら進める実験もある。
- **ねらい：実験技術を身に付け、講義で学んだことを実験などにより  
実証したり、テーマに対して主体的に行動して解決する力を養う。**



# 演習・ゼミ形式

- (比較的少人数で実施)
- 演習形式は、英語や理数系の授業で用いられており、
- 講義を受けるとともに自分で問題を解いたり、練習したりする授業である。
- ゼミは、教員の指導の下で、学生がグループに分かれ、それぞれのテーマについて調査・研究・発表、その後に質疑応答やディスカッションを行う⇒ 3・4年次に 行われる場合が多いが、1・2年次でも専門分野の動機付け、基礎技術の練習や 訓練などを行う基礎的なゼミも開講している。
- **ねらい：基礎技術など身に付け、専門分野の理解を深める。**  
グループ活動では、  
目標に向けて協力して達成する力を養う。





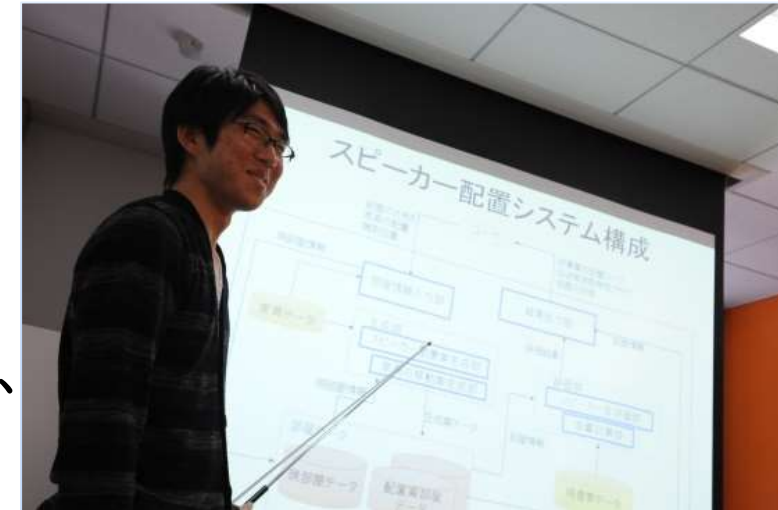
- 講義で学んだ内容を、実際に経験して体得するのが実習である。学内だけでなく、工場見学や臨地実習（保健所・病院・給食施設）インターンシップ（企業）など、学外で行われる場合が多い。
- **[フィールドワーク]**  
学外で行う実地調査・研究のこと。研究テーマに沿って特定の地域に出向き、調査や資料の収集を行う。
- **ねらい**：講義で学んだことと社会とのつながりを再確認し、自分の勉学の振り返り、さらには今後の自分の学びの姿勢や将来像の形成につなげる。





# 卒業研究・卒業プロジェクト

- 4年間の集大成が卒業研究（卒研）である。
- 全学生が履修する。
- 4年生の進級時に卒研着手要件（履修する条件）があり、それを満たさなければ履修できない。（留年）
- 所属学科単位に、「卒業研究」発表会が実施される。



ご清聴ありがとうございました。

ご不明な点は、教務課まで  
メールにてお問い合わせください。

M a i l : [kyoumu@kait.jp](mailto:kyoumu@kait.jp)